

Q&A 先月の技術相談から

キタゴヨウの用途について

Q：キタゴヨウを伐採することになりました。地元の要望もあり、何かの用材として使いたいと考えています。流通されていない木材のため、何か情報がありませんか。また、どのような用途がありますか。

A：キタゴヨウ (*Pinus parviflora* var. *pentaphylla* HENRY) はマツ科マツ属の針葉樹で、5本の針葉が短枝に側生する五葉松の一種です¹⁻³⁾。キタゴヨウは、北海道南部から本州北中部に分布し、東北地方南部から九州にかけて分布するヒメコマツ (*Pinus parviflora* SIEB. et ZUCC. または *Pinus parviflora* SIEB. et ZUCC. var. *parviflora*)¹⁻³⁾とともに、これら二つを合わせて「ゴヨウマツ」と総称されることもあります⁴⁾。

しかし、この両樹種の分類と名称には混乱があるとも指摘されており²⁾、たとえば、東京大学の平井信二氏が集大成した「木の辞典」⁵⁾や「日本の木材」⁶⁾では、キタゴヨウはヒメコマツとして掲載されており、学名も上記のものとは異なっています。

キタゴヨウの材質に関する資料はほとんどありませんが、分類上の基本種であるヒメコマツとほぼ同じと考えていいようです⁷⁾。ここでは、キタゴヨウをヒメコマツとして掲載し、諸性質や用途を記述している「木の辞典」と「日本の木材」などをもとに、ヒメコマツ材の性質と用途を紹介します。

■性質

辺材は淡黄白色、心材は淡黄紅色で、年輪幅は一般に狭く均一で、早材から晩材への移行は緩やかで、年輪はあまりはっきりしません。木理は通直で、肌目は精です。重さと硬さは針葉樹材の中では中庸で、切削や加工、乾燥が容易で、狂いも少ない材です。出材量は少ないため、希少な材といえます。

物理的性質や強度・加工性能の詳しい情報については、参考文献のNo.7を参照してください。

■用途

- ・切削加工がしやすく狂いが少ないため、彫刻材（仏像、仏壇の彫物）や鋳物の木型。
- ・建築材としては、天井材、長押、鴨居、敷居など、



写真 キタゴヨウ全景
(道総研 林業試験場提供)

戸障子などの建具材で評価が高い。

- ・このほか、漆器木地、曲物、曲輪などの器具材や、ピアノやオルガンの響板、鍵盤、バイオリンの腹板などの楽器材、経木や包装箱など。

■参考文献

- 1) 佐藤孝夫：“増補新版 北海道樹木図鑑”，亜細亜社，札幌，pp.87-88（2011）。
- 2) 森林・林業百科事典，（社）日本林業技術協会，p.938（2002）。
- 3) 陶山佳久ほか：日本産針葉樹の遺伝的多様性．地球環境18(2)，pp.127-136（2013）。
- 4) 尾崎煙雄ほか：垂直分布下限のヒメコマツ．森林科学，No.45，pp.63-68（2005）。
- 5) 平井信二：“木の事典 第一集”，かなえ書房，（1980）。
- 6) 日本の木材，（社）日本木材加工技術協会，東京，pp.20-21（1989）。
- 7) 佐藤真由美：外材と道産材．林産試だより，1991年5月号，pp.15-23（1991）。

(利用部 資源・システムグループ 渡辺誠二)